

年度 2008 学期 後期	曜日・校時	水曜日1校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生命の科学(感染と免疫) Life Sciences (Infection and Immunity)			
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室 講義		
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類	人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 由井克之 /Eメールアドレス:katsu@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 医学部基礎棟7階免疫機能制御学分野 /TEL:095-819-7070 /オフィスアワー:水曜日 10:20~10:30、メールは随時				
担当教員(オムニバス科目等)	中込 治、中込とよ子、本間季里			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 人体の主要な感染症と、それに対する防御免疫系の基本的な仕組みについて理解し、知識を獲得する。 授業方法: 液晶プロジェクター等を用い講義。 授業到達目標: 1) 人に感染を起こす各種微生物の基本的な性状と病原性について概説できる。 2) 感染症に対する免疫系の防御の基本的仕組みについて説明できる。 3) 免疫系が関与する病気について基本的な事項を説明することができる。 4) 感染症を制御するための医学的対策について説明することができる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 地球上には、無数の微生物が存在する。その中には人に感染する微生物も数多い。しかしながら、私達は平穏な毎日を過ごすことができる。これは、微生物の侵入や攻撃から私達の体を守る仕組み“免疫系”が備わっているからである。しかしながら、この仕組みとて完全ではなく、時に感染症を発病したり、免疫系自体の暴発により発病したりする。このような微生物と私達の体とのやりとりの仕組みについて、最新の知見も含め講義する。 第1回 10月 1日 : 1章 序論: 寄生、感染、そして免疫 (中込治) 第2回 10月 8日 : 2、3章 寄生体 外部の防御壁と寄生体がそれをかわす仕組み (中込治) 第3回 10月15日 : 4章 寄生体の存在による病気 (中込治) 第4回 10月22日 : 5章 免疫系 (本間) 第5回 10月29日 : 6~8章 自然免疫 (本間) 第6回 11月 5日 : 9、10章 適応免疫、B細胞と抗体 (本間) 第7回 11月12日 : 11章 T細胞とMHC (由井) 第8回 11月19日 : 12章 抗体応答 (由井) 第9回 11月26日 : 13、14章 細胞性免疫応答、寄生体が適応免疫をかわす仕組み (由井) 第10回 12月 3日 : 19、20章 化学療法 (中込とよ子) 第11回 12月10日 : 15、16章 適応免疫による病気 (由井) 第12回 12月17日 : 17章 免疫不全 (中込とよ子) 第13回 1月14日 : 18章 ワクチンの接種 (中込とよ子) 第14回 1月21日 : 自習 第15回 2月 4日 : まとめ(試験含む)				
キーワード				
教科書・教材・参考書	指定教科書「感染と免疫」John Playfair著、入村達郎訳、東京化学同人(教科書に沿って授業を行うので、受講者は必ず教科書を購入して授業に臨むこと。)なお、病原体については「病原体ビジュアルガイド」(西村書店)が平易でかつ正確に書かれているので推薦する。			
成績評価の方法・基準等	最終試験70%。 レポート等30%。 再試験は行わない。			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ/学習・教育目標				
備考(準備学習等)				